第8講

攻める自己アピールの思考法

チャプター1 Core Identity① 8つの知能
チャプター2 Core Identity② 組織の中の自分
チャプター3 Core Identity③ 自己を表すキーワード
チャプター4 おわりに

予習をしよう

自己アピール文を作成してみましょう。字数は問いませんが、志望校で求められる字数に合わせて論じてください。志望校が決まっていない場合は、800字以内でまとめましょう。

答案例を見てみよう

○ 答案例②

　私は中学・高校において演劇部で６年間活動を続け、バングラデシュ協会で貧困の子どもたちを支援する活動も行ってきた。その中で、特にマイノリティの意見を拾い上げることを意識してきた。私はマイノリティの意見に気付き、拾い上げることを得意とする。そうした行動ができる事を自らの強みとして、貴学を志願する。

　私は部員と良き仲間であり良きライバルとして意識し合い、成長してきたが、他方で部活動では物事を決める際には、声の大きい者や多数派の意見が優先されがちだという課題感を持った。そうした中で、私は少数派の意見や後輩が発した声に気付き、先輩としてその意見を拾い上げてきた。たとえ自分と異なった意見でもそうした声をきちんとくみ取り、１人１人の意見が舞台に反映されることの重要性を見出した。このような柔軟性を身につけると同時に、日々舞台研究に励み、挫折を乗り越えることで培った精神力の強さをアピールしたい。周りのレベルについていけず取り残される孤独感、オーディションに落ちて役がもらえなかった経験、本番前日に骨折して出演できなかった辛さ、思い通りに良い演技ができない悔しさ等、多くの経験と挫折を乗り越え、主役をもらうまでに成長した。

　他方、高校でのバングラデシュ協会との出会いも私の視座に影響を与えた。鉛筆１本、ノート１冊すら持たず、学校に通うことができない異国の子どもたちの現実を知った。そうした環境の中で高所得者に搾取され、困窮した生活を強いられる貧困層やその末端で教育すら受けられない子どもたちを目の前にした。基本的人権の尊重を謳うバングラデシュにおいて、存在すら軽視される彼らは、まさにマイノリティである。私は協会で子どもたちや学校支援を通して、マイノリティの主張を受け止めようと活動してきた。友人に協力を求めて文具や衣類を収集し、荷物の仕分け、包装、発送を行う。彼らの声なき声を拾い、今の私ができることに取り組む。こうした主体的な取り組みの集合体が、人々を救うのだと信じて、日々実践している。

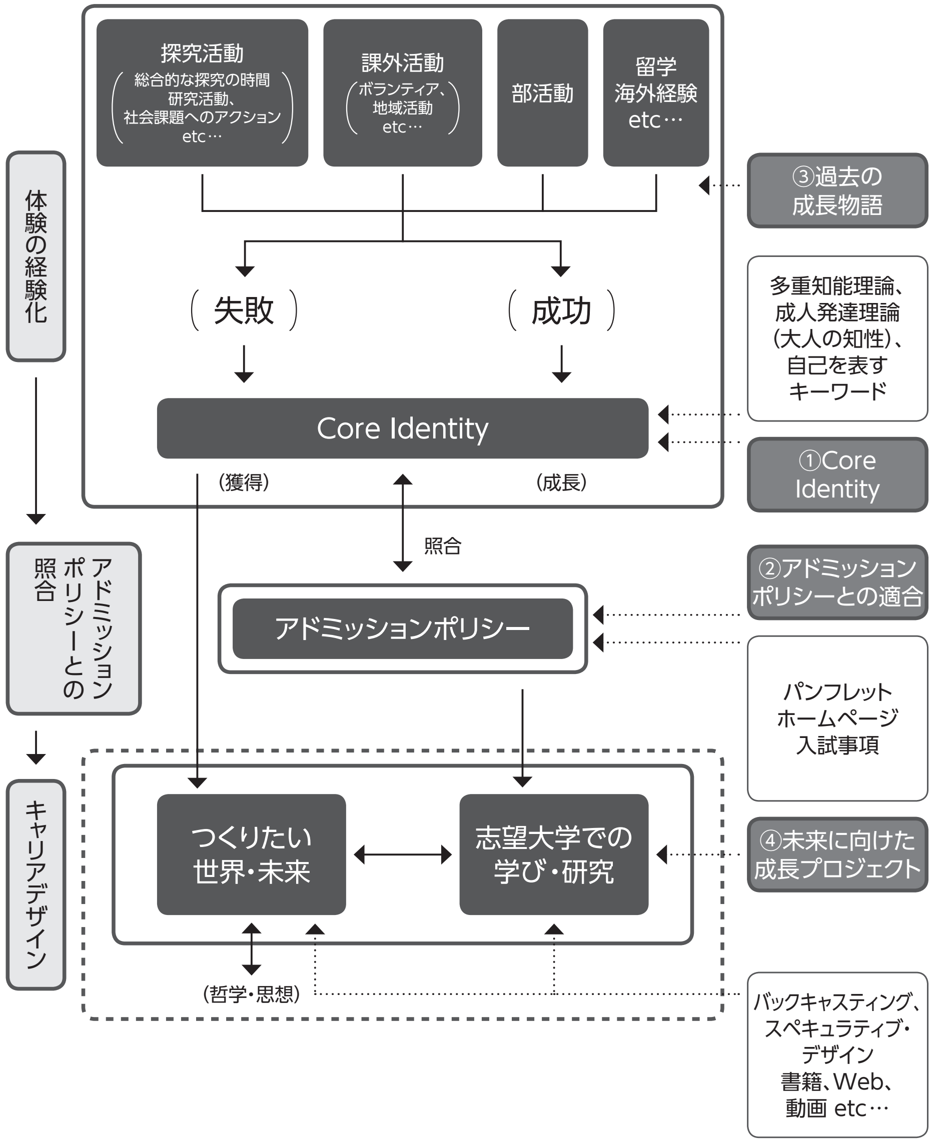
　私は二つの活動を通して、マイノリティの価値観を認め、彼らの幸せをどのように形にすればよいのかを考えるとともに、具体的な行動で具現化しようと努力してきた。貴学部では「社会改良の礎石となる

べき人材の育成」を追求してきたと述べているが、その改良には声なき声を拾い上げることが欠かせない。共同体を生きる人々がそれぞれ意思を持ち、自らの幸せとともに、世界にかかわる他者の幸せを願うなら、関係者すべての声を拾い、その主張を吟味するという過程を経る必要がある。私はその手続きに必要な「共同体の構成員の声を拾うこと」を意識しながら生きている。

　私はこれから民主主義社会において、社会学の探究を通して幸福な社会を構築する担い手として活躍したいと願っている。特に、人工知能による職業の変化、グローバル化による人材の流動化、人口減少による日本経済の縮小など、課題は多種多様である。そうした中で私たちは知恵を絞りながら、未来を創り上げなければならない。その際、共同体に所属する皆が課題を共有し、要因を探ったうえで、これまでの社会を再構築しなければならない。そういった時代に最適化した世界をつくる源は、小さな声をすくいあげる「手のひら」なのである。私は貴学部での社会学の学びを深め、そんな「手のひら」の役割を担えるよう、成長したいと願っている。そして、人々の幸せを心の底から願える人間でありたいと日々考えながら、生きていきたい。

生徒メモ欄

○自己アピール構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター1

Core Identity① 8つの知能

○多重知能理論

有賀三夏『自分の強みを見つけよう 「8つの知能」で未来を切り開く』(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス)表紙より

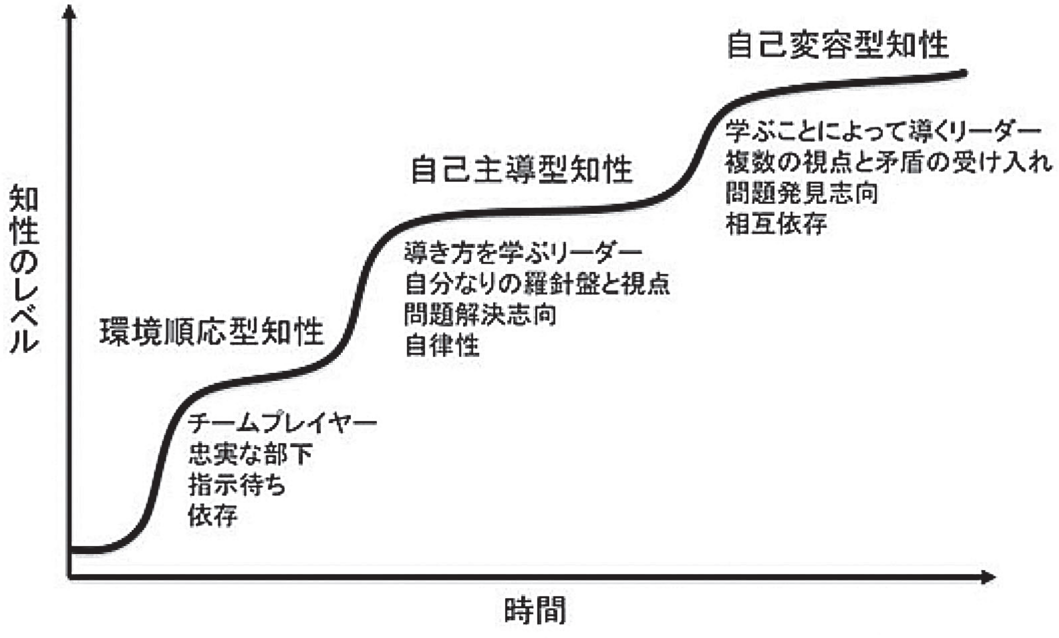
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

Core Identity② 組織の中の自分

○大人の知性の3つの段階



ロバート・キーガン、リサ・ラスコウ・レイヒー 著／池村千秋 訳『なぜ人と組織は変われないのか』（英治出版）

[原典] Translated and reprinted with permission from "Immunity to Change" by Robert Kegan, Lisa Laskow Lahey.
Harvard Business Press Books, 2009. Copyright (c) 2009 Harvard Business School Publishing Corporation; all rights reserved.
Japanese digital reprint arranged with Harvard Business Publishing, Boston through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

Core Identity③ 自己を表すキーワード

○ 性格や特性による分類

① 前向き…
積極的、チャレンジ精神、向上心、リーダーシップ
② 明るさ…
社交的、面倒見がよい、明朗快活
③ 力強さ…
意志が強い、熱意がある、熱心
④ 忍耐強さ…
粘り強い、勤勉、努力、打たれ強い
⑤ クリエイティブ…
独創的、思考が柔軟、感性が豊か、発想力
⑥ 気配り…
思いやり、協調性、気が利く
⑦ まじめさ…
素直、誠実、几帳面、冷静、謙虚
⑧ 知的さ…
探求心、研究熱心、向学心、理性的

○ 自分が持つ能力による分類

① 発見・創造力…
企画力、観察力、思考の柔軟性、想像力、情報収集力
② 理解・判断力…
理解力、問題解決力、論理的思考力、判断力
③ 対人・組織力…
チームワーク、リーダーシップ、対話能力、適応力
④ 表現力…
説得力、説明力、表現力、文章力
⑤ 実行力…
迅速性、正確性、計画性、行動力、主体性、自立性

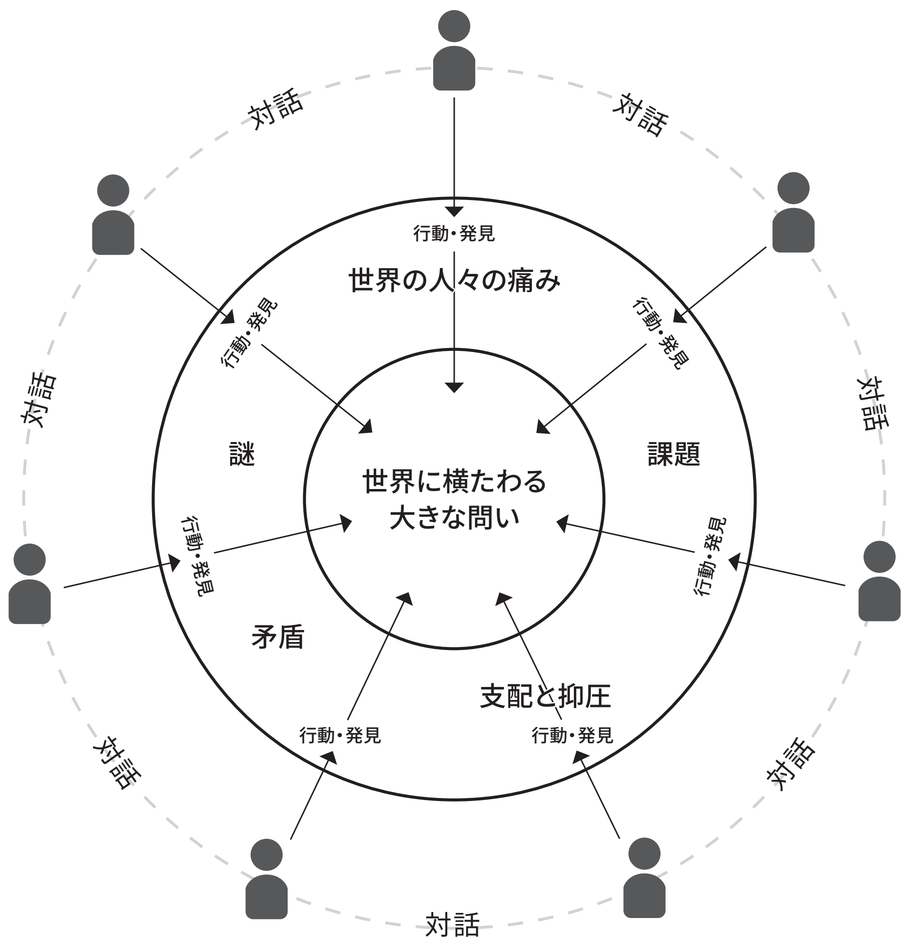
生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

おわりに

○探究する意味



生徒メモ欄

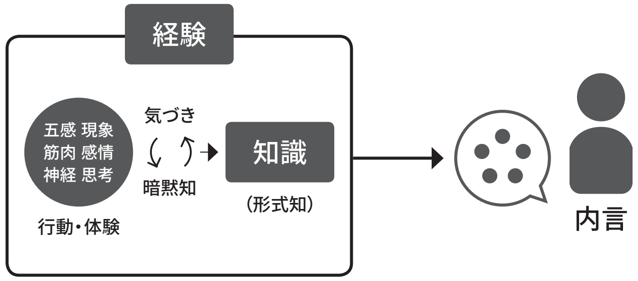
教員記入欄

おわりに

この講座では、大学を研究機関と捉え、志望理由や自己アピールを構築してきました。これらを形にする過程でさまざまな学びを得てきたのではないでしょうか。あなたがともに生きようとする学問とはどういうものなのか、社会とどう接続しているのか、世界に横たわる大きな問いにどう立ち向かっているのか、ということも少しずつ見えてきたのではないでしょうか。

私はそもそも総合型選抜・学校推薦型選抜で合格者を輩出する表面的なテクニックを教えても、それは対症療法でしかないし、私が存在する意味はそこには見出せません。大学という機関が持つ本質は「研究」です。そこを真正面から捉え、「あなたはどういう世界をつくりたいのか（未来創造）」とどう接続するのかを徹底的に考え抜くことが、大学に入学する者であれば最も大事なことです。大学、そしてこれまで先人たちが培ってきた学問を尊重し、さらに歩を進めることが大事だと思っています。

ですから、講座では整理するのに時間がかかることを要求したり、あなたが持たない眼差しを持ち込んだりしました。その過程で、実は大学で学ぶ力も身についていることに気づいたでしょうか。あなたの体験を棚卸ししながら、気づかなかった世界に気づいて知を得たり、書籍や論文に触れながら知を獲得したりしたと思います。そうやってあなたの中に内なる言葉を蓄え、あなたがあなた自身を成長させたわけです。



そう捉えると、この講座を受講する前のあなたと、今のあなたははるかに変わったはずです。まだまだ最先端（フロンティア）までは遠いかもしれないけれど、一筋の光は掴んでいて、大学での学びに希望を見出したり、少し大変かもしれないけれど学問に向き合おうというマインドもスキルも備わったことでしょう。

この経験はきっと大学での学問探究を支えることになりますし、もちろん総合型選抜・学校推薦型選抜でもあなたにとって大きな自信になるはずです（私の講座はおそらく日本一ハードですが、真っ当な方法論を当たり前のように語っています）。最後まで取り組んでくれたあなたは、あなたが持つ才能をもとに、きっと世界をつくる人になってくれると信じています。

この講座で養った実力をもとに、全力で試験に挑んでください。きっとあなたにとって素敵な大学生活が待っていることでしょう。私はこれからもあなたを応援し続けています。ぜひ頑張ってください！

神﨑 史彦

○ 原稿用紙の使い方

志望理由書や自己アピール文の書式には、原稿用紙のマス目が用いられることがあります。原稿用紙の使い方を誤ると、減点対象になったり、悪印象を与えたりする恐れがあります。出願書類を書く前には、必ず原稿用紙の使用に関するルールを確認しましょう。些細なミスは、できる限り避けたいものです。

×〈悪い例〉

×1 私は栄養のバランスがとれる食事の指導法や
栄養管理の方法を研究し、将来管理栄養士と
して患者の方のQOLを第一に内面から支えて
いきたい。（×2）
×1 幼い頃から体が弱かった私は、母の『栄養管理』（×3 ×3 ×4）
のおかげで成長することができた。栄養の管
理の重要性を感じている私は、管理栄養士と
なって、子どもが健全な生活を営む支援をし
ていきたいと考えるようになった。
　そのためには、食物や病気に関する様々な
知識とコミュニケーション能力の2つの要素
が必要だ！貴学では、基礎栄養学を始めとし（×6）
×5 、臨床栄養学、栄養教育実習といった栄養に
関する幅広い知識とコミュニケーション能力
を養う事ができるカリキュラム、そして、教
授陣が揃っている。
　将来、私は〇〇大学栄養学部管理栄養学科
で身に付けた栄養学に関する知識、実技能力、
コミュニケーション能力を活用して、病気で
苦しんでいる子どもを助けたいと考えている。（×7）

×1 書き始め
書きはじめや段落を分ける場合には、最初の1マス目を空けます。ただし、1マス目から書くように指示されている場合は、その指示に従いましょう。

×2 数字、アルファベット
横書きの原稿用紙で数字を用いるさいは、漢数字とアラビア数字(1、2、など)のどちらも使用できます。アルファベットや単位記号(kmなど)も使えます。アラビア数字やアルファベットを書く時は1ケタならば 1マス1字、2ケタならば1マス2字で記します。

【注意】縦書きの場合、数字は漢数字(一、二など)のみ用い、1字に1マス使用します。アラビア数字は使いません。単位記号やアルファベットはなるべく用いず、カタカナで表記します。

×3 句読点、小文字
句読点や小文字(っ、ゃなど)、カギかっこも1マス分使います。

×4 二重カギかっこ
二重カギかっこ(『　』)は書籍の題名を記す場合や、カギかっこ内でかっこを使用する場合のみ使います。通常はカギかっこ(「　」)を用います。

×5 行の頭
句読点・小文字・とじかっこが行の頭に来る場合は、直前行の最後の1マスに他の文字と共に記入します。

×6 記号、コーテーションマーク
記号(!や?)やコーテーションマーク(“　”)の使用は避けましょう。

×7 句点
最後のマス目に句点を同居させると、字数オーバーになる恐れがあります。最終行に限っては句点も1字と数えましょう。

○ 表現・表記上の注意

志望理由書や自己アピール文を書く際には、表現や表記に気を付けなければなりません。表現・表記への気配りは、読み手の無用な混乱を防ぎます。また、あなたの意図を正しく伝えることにもつながります。一方で、表現や表記上の誤りは減点の対象となる恐れもあります。正しい表現・表記を心掛けましょう。

文章の長さ ○1

× 私たちは居住環境を維持するために空調・照明・給湯等にエネルギーを投入し、生活排水による有機物汚染などが環境に大きな負荷を与え、自然のエネルギーには限りがあり、人間が対応するには限界があります。

○ 私たちは居住環境を維持するために、空調・照明・給湯等にエネルギーを投入しています。また、生活排水による有機物汚染などが環境に大きな負荷を与えています。自然のエネルギーも、人間が対応する力にも限界があるのです。

呼応表現 ○2

× 疾患の原因物質の構造を理解したり、抗体を作る力が必要だ。
○ 疾患の原因物質の構造を理解したり、抗体を作ったりする力が必要だ。

× なぜなら、ロボットを用いれば人力では動かせない重さの荷物でも動かすことができる。そうしたロボットの開発と普及は福祉や救助の現場で役立つからだ。
○ なぜなら、ロボットを用いれば人力では動かせない重さの荷物でも動かすことができ、そうしたロボットの開発と普及は福祉や救助の現場で役立つからだ。

誤りやすい漢字・送りがな・かな表記 ○3

× 忙がしい → ○忙しい　× 短かい → ○短い　× 決っして → ○決して
× 価値感 → ○価値観　× 少しづつ → ○少しずつ　× コミニュケーション → ○コミュニケーション

句読点 ○4

× 都市緑地改革を、積極的に推進し、明るい社会を、作っていきたい、と考えている。
○ 都市緑地改革を積極的に推進し、明るい社会を作っていきたいと考えている。
× 母に電話をして迎えに来てもらえるよう頼んだ。
○ 母に電話をして、迎えに来てもらえるよう頼んだ。

文末表現 ○5

× その人にとって、生命の質とは何かを探ることが大切です。こうした取り組みは、医療従事者にとって不可欠だと考える。
○ その人にとって、生命の質とは何かを探ることが大切です。こうした取り組みは、医療従事者にとって不可欠だと考えます。
○ その人にとって、生命の質とは何かを探ることが大切だ。こうした取り組みは、医療従事者にとって不可欠だと考える。

会話調の表現・略語 ○6

× そんな、こんな → ○そのような、このような　× 自分はこう思う → ○ 私はこう思う。
× 部活 → ○部活動　× 携帯 → ○ 携帯電話

表現技巧・無意味なカタカナ書き ○7

× 忘れてはならないのは、豊かな社会の実現。
○ 忘れてはならないのは、豊かな社会を実現させることだ。
× 皆で考えるべきだ、代替エネルギーの普及を。
○ 代替エネルギーの普及を、皆で考えるべきだ。
× 他者を思いやることがイチバンである。
○ 他者を思いやることが一番である。

○1 文章は短く区切る
文章が長くなると、主語と述語、修飾語と被修飾語との関係が曖昧になり、ねじれ表現(「重要なことは、気持ちが無ければならない。」など、主語と述語がねじれている表現)を生む原因となります。

○2 呼応表現は正しく使用
たとえば「なぜなら」と書き始めたら、「〜からだ。」などといった表現を用います。「〜たり、〜たり」は、特に誤りが多い呼応表現です。また、呼応関係は一文中でのみ働きますので、文をまたいで使用することはできません。

○3 漢字表記などの誤り
漢字、送りがな、かな表現の誤りに気を付けましょう。また、漢字のあるものは原則漢字表記です。思い出せない部分のみ平仮名を使用した、漢字かな混じりの表現も適切ではありません。外来語の表記ミスにも注意しましょう。

○4 句読点の注意
句点(。)は文の終わりに打ちます。読点(、)は適切に打ちますが、打ちすぎたり、少なすぎたりしないようにしましょう。また、例文のように読点の位置で文章の意味が変わることがありますので、打つ位置にも気を配りましょう。

○5 文体を統一する
志望理由書や自己PR文のような出願書類では、敬体(です・ます調)と常体(だ・である調)のいずれを用いてもかまいません。ただし、どちらかに統一します。

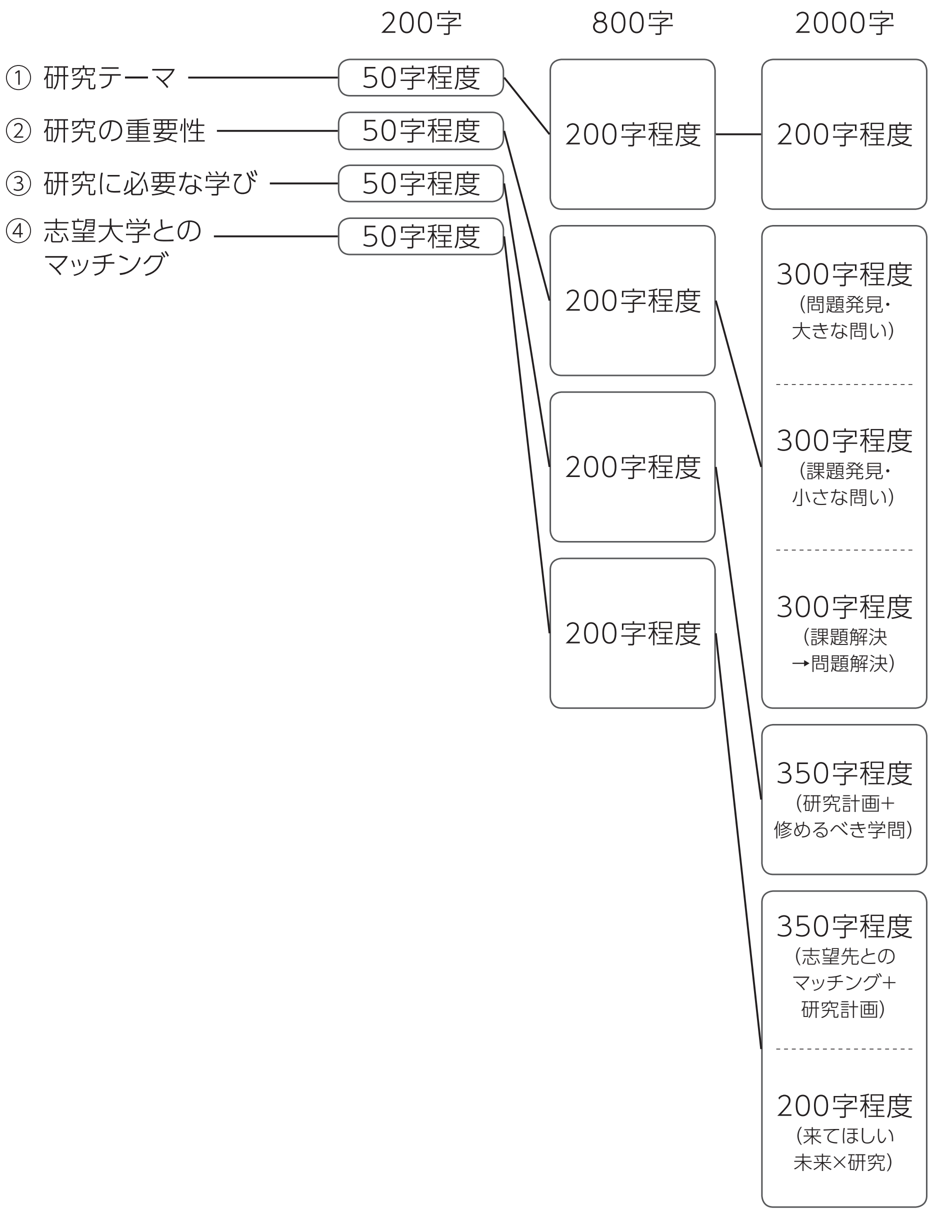
○6 会話調の表現・略語は用いない
「なので」「でも」「ちゃんと」「…じゃない」「お父さん」「僕」などは、会話調の表現です。それぞれ「このため」「しかし」「きちんと」「…ではない」「父」「私」などと書き換えましょう。ら抜き言葉(「見れる」「食べれる」「来れる」)なども使用しません。

○7 意図を正確に伝える
体言止め、倒置法、省略などの表現技巧を用いると、解釈を読み手にゆだねることになります。書き手の意図を正確に伝えることを目的とする志望理由書での使用は避けましょう。また、無意味なカタカナ書きの使用も、同様の理由で控えましょう。

巻末資料①　書類の表記・表現方法チェックシート

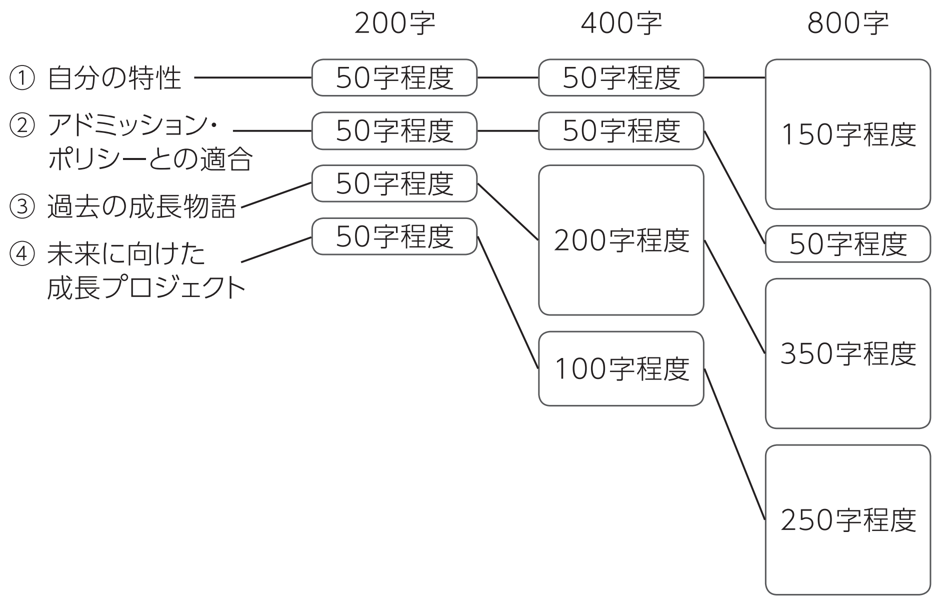
○ 段落の設定

●志望理由書の場合



○ 段落の設定

●自己アピール文の場合



巻末資料①　書類の表記・表現方法チェックシート

○ 字数の調整

●字数の増やし方

曖昧な表現、抽象的な表現を詳細に示す（解像度を上げる）

例を見てみよう

（修正前）　私は、法学部で公法について学びたい。

↓

（修正後1）　私は、法学部法律学科で憲法学を学びたい。

（修正後2）　私は、法学部法律学科で憲法学を学びたい。特に日本国憲法にある基本的人権の尊重をもとに既存の法律を紐解いたとき、法律によって差別問題が引き起こされている現実をどう捉え直し、修正していくべきかを考えていきたい。

（修正後3）　私は、法学部法律学科で憲法学を学びたい。特に日本国憲法にある基本的人権の尊重をもとに既存の法律を紐解いたとき、法律によって格差問題が引き起こされている現実をどう捉え直し、修正していくべきかを考えていきたい。具体的には一票の格差の問題を取り上げる。選挙権の平等を論じるとき、一人一票の原則が前提になるが、残念ながら投票価値の平等が保たれない現実がある。こうした場合、裁判所により違憲か否かが判断されるが、それに妥当性があるか、もし妥当性が危うい場合は法をどう修正すればよいのかということを研究していきたい。

○ 字数の調整

●字数の減らし方

重複表現や修飾語句の削減、熟語の使用、遠回しの表現（無駄のない表現にする）

例を見てみよう

（修正前）　SNSをはじめ、私たちがインターネット上で自分の考えていることを表現したとき、嫌がらせのような書き込みをする人々がいることによって、とても不快に感じてしまう場面が起こりうる。こうした問題にどう対処すればよいのだろうか。

↓

（修正後1）　私たちがSNSで自分の考えていることを表現したとき、嫌がらせのような書き込みをする人々がいることによって、不快に感じてしまう場面が起こりうる。こうした問題にどう対処すればよいのだろうか。

（修正後2）　私たちがSNSで自己表現をしたとき、誹謗中傷を行う人々がいることによって、不快に感じてしまう場面が起こりうる。こうした問題にどう対処すればよいのだろうか。

（修正後3）　私たちがSNSで自己表現をしたとき、誹謗中傷によって不快感を覚える場面が起こりうる。この問題の対処法を考えたい。

巻末資料②　志望理由書　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
大学での学びの明確さ（研究テーマの設定）	研究テーマの妥当性	① 自己の課題観および研究テーマの明確さ ② 課題解決と学部・学科の専門性との関連 ③ ②の妥当性 ④ ②の社会的ニーズの有無	明確な自己の課題観に基づいて大学で志す学びを明確にしており、その学びに社会的意義があることを理解している。加えて、その解決方法が他の方法・手段と比べて妥当性があることを反論を想定したうえで説明できている。	明確な自己の課題観に基づいて大学で志す学びを明確にしており、その学びに社会的意義があることを理解している。	明確な自己の課題観に基づいて大学で志す学びを明確にしている。	明確な自己の課題観はあるものの、大学で志す学びを明確にしていない。	自己の課題観が明確かどうか判定できない。
	独創性・先端性	① 課題解決の視点・手段の独創性 ② 課題解決の視点・手段の先端性	認識している課題を解決する視点や手段に独創性があり、かつ先端性があるものである。	認識している課題を解決する視点や手段に独創性がある。	認識している課題を解決する視点や手段を具体的に提示しているものの、既存のものである、もしくは類似したものである。	認識している課題を解決する視点や手段が一般論に終始している。	課題を解決する視点や手段が明確かどうか判定できない。
研究の重要性（継続的な探究心）	現状認識の十分さ	① 情報源の確かさ ② 複数の情報源からの情報収集 ③ 情報活用時の中立性	信頼できる様々な情報源から、中立的な視点に立ち、これまでに明らかにされた知見を得ている。	信頼できる様々な情報源から知見を得ている。	信頼できる情報源から知見を得ているが、単数である。	信頼性を欠く情報源から知見を得ている、もしくは自己の経験による知見のみに依存している。	信頼できる情報源もしくは自己の経験から知見を得ているかどうか、判定できない。
	問題発見・解決能力の有無	① 情報をもとにした問題発見 ② 問題に紐づく課題の発見 ③ 問題および課題の発生要因分析 ④ ③の解決方法の提示と学部・学科での学びとの関連性	自ら手に入れた情報をもとに問題を発見し、それに紐づいた課題を多角的な視点から発見している。加えて、それらの発生要因を分析したうえで、解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示している。	自ら手に入れた情報をもとに問題やそれに紐づく課題を発見し、発生要因を分析したうえで、解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示している。	自ら手に入れた情報をもとに問題を発見しているが、解決方法を学部・学科での学びと関連付けが不十分である。	自ら手に入れた情報から問題を発見しようとしていない、もしくは解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示していない。	自ら手に入れた情報から問題を発見しようとしていない、かつ解決方法を学部・学科での学びと関連付けて提示しているかどうか判定できない。
	継続的な学び	① 現状認識から学部・学科進学決定までの「探究」の継続性 ② 自己の体験・経験・実績・資格取得等との関連性	現状認識をもとに、学部・学科進学決定に至るまで、継続的に「探究」していることを、自己の実績・資格取得等と結び付けて示している。	自己の体験・経験を起点とし、情報収集をもとにした現状認識を踏まえ、学部・学科進学決定に至るまで、継続的に「探究」していることを示している。	自己の体験・経験を起点にし、情報収集をもとにした現状認識を踏まえ、学部・学科進学決定に至るまで「探究」している。	自己の体験・経験を起点に学部・学科進学決定をしているが、「探究」している様子がうかがえない。	自己の体験・経験がなく、学部・学科進学を決定している、かつ「探究」している様子がうかがえるかが、判定できない。
志望先とのマッチング（研究テーマと志望先との整合性）	研究テーマに必要な学びの理解	① 研究課題解決に必要な学びの認識の有無 ② ①に該当する学問領域および研究環境の理解	自らの研究課題解決に必要な学びを分析・細分化し、具体的な学問領域や研究環境まで踏み込んで示している。	自らの研究課題解決に必要な学びを分析し、自分の専門領域外の学問まで目を向けている様子がわかる。	自らの研究課題解決に必要な学びを自分の言葉で咀嚼して示している。	自らの研究課題解決に必要な学びを示しているが、自分の言葉で咀嚼して示していない（パンフレットの記述そのまま）、もしくは漠然とした記述に終始している。	自らの研究課題解決に必要な学びについて示しているかどうか、判定できない。
	志望先とのマッチング	① 自らの研究課題と志望先での学びとの整合性 ② 志望先のリソースの理解をもとにした志望先選択 ③ 志望先選択の合理性・説得性	自らの研究課題の解決のために、志望先（大学・学部・学科）での学びが必要であることをカリキュラム・授業内容・指導教員といった大学のリソースを理解したうえで示しており、他大学と比較しても志望先へ進学しなければならないことを説得的に述べている。	自らの研究課題の解決のために、志望先（大学・学部・学科）での学びが必要であることをカリキュラム・授業内容・指導教員といった大学のリソースを理解したうえで具体的に示している。	自らの研究課題の解決のために、志望先（大学・学部・学科）での学びが必要であることを具体的に示している。	自らの研究課題と志望先での学びが結びついた記述があるものの、具体性に欠ける。	自らの研究課題と志望先での学びが結びついているかどうか、判定できない。

●表記・表現

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	① 誤字・脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	—	—	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が1つまたは2つある。	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が3つ以上ある。
	段落の設定	意味性のある段落構成	意味性を持って段落を区切っている。(最低限、「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の3か所で区切っている)	—	—	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。(「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の区切りが曖昧な箇所がある)	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。(一文で区切るなど)
	制限字数	制限字数の厳守	制限字数の9割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	—	—	制限字数の8割〜9割未満である。	制限字数の8割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。
	文体の統一	敬体・常体の統一	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一している。	—	—	—	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一していない。
	表現技法	① 呼応表現 ② 句読点 ③ 文のねじれ ④ 主語・目的語・述語の明示 ⑤ 省略語・若者言葉 ⑥ 出願書類特有の表現	明らかな表現上の不備がない。(呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現)	—	—	明らかな表現上の不備が1つまたは2つある。(呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現)	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。(呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現)

巻末資料③　自己アピール文　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
Core Identity（長所の設定）	具体性	具体的な長所の明示	長所が具体的で、能力・行動ならびに思考特性がよくわかる。かつ、志望校に合格させるメリットがあると感じさせる表現である。	長所が具体的で、能力・行動ならびに思考特性がよくわかる。	長所が具体的で、能力や行動ならびに思考特性がおおよそわかる。	長所が具体的でなく、能力や行動ならびに思考特性がわかりにくい。	具体的な長所かどうか、判定できない。
	独自性	独自性のある長所の明示	自己を深く見つめ、自分に身についた長所を独自の分析で導いている。かつ、他者にはない独自の長所を示している。	自己を深く見つめ、自分に身についた長所を独自の分析で導いている。または、他者にはない独自の長所を示している。	自分なりに長所を示しているが、誰でも当てはまりそうな内容に留まっている。	自分なりに長所を示しているが、高校生としての知性を感じさせないものである。	独自性がある長所かどうか、判定できない。
根拠（長所を志望校にアピールする理由説明）	経験をもとにした説明	① 自己の経験の振り返りの有無 ② ①の中にある課題の抽象化 ③ ②の原因分析 ④ 長所による③の改善とその経緯	自己の経験をもとに、そのときに生じた課題に対して客観的に原因分析を行ったうえで、自らの長所をどう活用すればよいのかを考え、改善へ導いている。よって、長所のメリットが明確に伝わる。	自己の経験をもとに、そのときに生じた課題を自らの長所によってどう改善したのかを分析している。よって、長所のメリットがおおよそ伝わる。	自己の経験を述べているものの、長所をどう生かしたのかといった考察が施されていない。	自己の経験を述べているが、長所のアピールと関係のない記述が大半を占めている。	自己の経験と長所の関係性を判定できない。
	信憑性・客観性	① アピールポイントおよび説明の信憑性 ② 主観・感想を排除したアピール	事実による説明により、説得力がある具体性の高い内容となっている。内容・表現ともに信憑性が高い。	事実による説明に終始しており、内容・表現ともにおおよそ信憑性がある。	時折、主観・感想が混じるものの、事実による説明があるので、内容は信憑性があると思われる。	主観・感想が多くを占めており、事実による説明があまりない。もしくは、信憑性が疑われる内容および表現がある。	信憑性・客観性が判定できない。
	志望校とのマッチング	① 長所とアドミッションポリシーの合致 ② ①の志望先への十分な説明	アドミッションポリシーに合った長所を示し、その説明を適切に行い、志望先に対するアピールを行えている。	アドミッションポリシーに合った長所を示し、志望先に対するアピールを行う姿勢がうかがわれる。	アドミッションポリシーに合った長所を示しているが、志望先に対するアピールを十分に行えているとはいえない。	アドミッションポリシーに合った長所とはいえない。	アドミッションポリシーに合った長所かどうか判定できない。
未来創造（長所の活用）	志望校での長所の活用	① 長所を志望校での学びで生かしたいという意思表示の有無 ② 具体的な生かし方の提示	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを授業や研究内容と絡めながら述べ、学んだ末にどのような成果を上げたいのかを明示している。	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを、授業や研究内容と絡めながら具体的に示している。	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを示しているが、具体性に欠ける。	長所を志望校でどのように生かしたいのかを示しているが、学びと関係性が薄い記述である。	長所を志望校での学びにどのように生かしたいのかを示しているかどうか、判定できない。
	社会貢献	① 長所を社会で生かしたいという意思表示の有無 ② 具体的な生かし方の提示	長所を社会でどのように生かしたいのかを職業や社会動向と絡めながら述べ、その結果としてどのような目的を達成したいのかを明示している。	長所を社会でどのように生かしたいのかを、職業や社会動向と絡めながら具体的に示している。	長所を社会でどのように生かしたいのかを示しているが、具体性に欠ける。	長所を将来どのように生かしたいのかを示しているが、社会との関係性が薄い記述である。	長所を社会でどのように生かしたいのかを示せているかどうか、判定できない。

●表記・表現

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	① 誤字・脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	—	—	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が1つまたは2つある。	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が3つ以上ある。
	段落の設定	意味性のある段落構成	意味性を持って段落を区切っている。（最低限、「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の3か所で区切っている）	—	—	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。（「研究テーマの提示」「動機」「志望先とのマッチング」の区切りが曖昧な箇所がある）	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。（一文で区切るなど）
	制限字数	制限字数の厳守	制限字数の9割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	—	—	制限字数の8割〜9割未満である。	制限字数の8割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。
	文体の統一	敬体・常体の統一	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一している。	—	—	—	文体を「だ・である」「です・ます」のいずれかに統一していない。
	表現技法	① 呼応表現 ② 句読点 ③ 文のねじれ ④ 主語・目的語・述語の明示 ⑤ 省略語・若者言葉 ⑥ 出願書類特有の表現	明らかな表現上の不備がない。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）	—	—	明らかな表現上の不備が1つまたは2つある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の使用のなさ、出願書類特有の表現）